4　農水産物の輸出

①輸出の歴史

鳥取県における農水産物の輸出は，「二十世紀なし」を１９３３年（昭和８年）から中国，朝鮮半島，台湾などに住んでいる日本人向けに送ることから始まったという古い歴史があります。

第二次世界大戦中は一時的に中断しましたが，その後，新たな国々へ輸出を行い，多いときには１万トン以上の果物が世界各国（多いときで２２か国）の人たちにとどけられていました。

②果物輸出の中心「二十世紀なし」

果物輸出の柱は，なんといっても二十世紀なしです。二十世紀なしは他のなしに比べてたいへん日持ちがよく，船で長い時間をかけてさまざまな国にはこぶことができることから，輸出に適した果物です。



スーパーマーケットの店頭に
ならぶ鳥取県産なし（香港）

また，長年にわたり輸出に取り組んできた人たちの努力によって，文化や考え方がちがう国々の人たちとの信頼関係をきずいてきたことが輸出の土台となっています。中でも台湾や香港などでは秋に親しい人へおくり物をする習慣があり，青く美しい二十世紀なしは高級果物として人気があります。また，東南アジアやアメリカ，カナダ，ヨーロッパなど，広く多くの国々へ輸出され，１９８５年（昭和６０年）には輸出量が１２,１３４トンに達しました。

③近年の農水産物輸出

近年，二十世紀なしの輸出量はおよそ２３０トンまでへりましたが，しゅうかく時期の異なる「王秋」や「あたご」，新品種「新甘泉」も輸出し，鳥取県産のなしを海外で長い期間はん売できるように取り組んでいます。



「二十世紀なし」をPR
（アメリカ・ロサンゼルス）

「富有柿」も輸出に適した果物で，１９８２年（昭和５７年）から東南アジアに輸出されてきました。タイでは特に柿の人気が高く，新品種「輝太郎」の輸出も始まっています。



すいかのはん売のようす
（香港）

「すいか」の輸出は２０１４年（平成２６年）から本格的に始まり，今では毎年およそ２６トン出荷されるほど香港でのはん売が定着しました。

また，国内でも有数の漁かく量をほこる境港では，「マサバ」，「アジ」，「ブリ」などたくさんの魚がとれ，ベトナム，タイなど東南アジアを中心に輸出しています。鳥取県から輸出する水産物の金額は，鳥取県の農水産物など食品の輸出金額の３割以上になります。

④新しい輸出の取り組み

外国の人に鳥取県産の農水産物を食べてもらうには，はじめに鳥取県のことをよく知ってもらうことが大切です。そのため，鳥取県を好きになってもらい，鳥取県に来ていろんなものを食べてもらえるように，鳥取県の食のみ力を伝えていく取り組みを行っています。

鳥取和牛の輸出は，香港，台湾，タイなどに向けて２０１６年（平成２８年）から始まっています。

また，鳥取県の農水産物をスーパーマーケットなどではん売してもらうだけでなく，それをもっとおいしく食べてもらえるように工夫しています。このことで，多くの外国の人に鳥取県のみ力を感じてもらい，鳥取県産の農水産物の人気や価値があがっていくように取り組んでいます。



高級ホテルでの鳥取和牛を利用したメニューの提供（タイ）



飲食店と連携した鳥取県産柿メニューの提供（台湾）